

再評価結果（平成29年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：川崎 茂信

事業名	一般国道8号 <small>なおえつ</small> 直江津バイパス		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
起終点	自：新潟県上越市大潟区犀潟 至：新潟県上越市虫生岩戸				延長	12.2km
事業概要	国道8号直江津バイパスは、交通混雑の緩和と交通事故削減、地域開発・産業への支援、物流効率化による企業の生産性向上などを目的とした延長12.2kmのバイパス事業である。					
S41年度事業化	S42, 47年度、H9年度都市計画決定 (H元, 10年度変更)		S42年度用地着手		S43年度工事着手	
全体事業費	約360億円	事業進捗率	63%	供用済延長	2.8km(暫定2車線) 2.4km(完成2車線) 7.0km(完成4車線)	
計画交通量	16,200 ~ 39,900台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.0 (残事業) 1.6	総費用：(残事業)/事業全体 130/1,015 億円 (事業費：104/885億円 維持管理費：26/131億円)	総便益：(残事業)/事業全体 209/2,008 億円 (走行時間短縮便益：178/1,704億円 走行経費減少便益：28/244億円 交通事故減少便益：3.3/60億円)	基準年：平成25年		
感度分析の結果	(事業全体) 交通量：B/C= 1.8~2.1(交通量±10%) (残事業) 交通量：B/C= 1.6~1.7(交通量±10%) 事業費：B/C= 2.0~2.0(事業費±10%) 事業費：B/C= 1.5~1.8(事業費±10%) 事業期間：B/C= 1.9~2.0(事業期間±20%) 事業期間：B/C= 1.5~1.7(事業期間±20%)					
事業の効果等	定性的な効果 ①北陸新幹線・上越妙高駅と主要観光地間を結ぶ観光ルートとしての機能向上 ・平成27年3月に北陸新幹線（上越妙高駅）が開業し、今後は新水族博物館の開館や上信越道4車線化等による観光入込客数の増加が見込まれており、直江津バイパスの整備は、地域の観光支援に寄与する。 ②第三次医療施設（新潟県立中央病院）へのアクセス向上 ・直江津バイパスの整備により、上越地方唯一の第三次医療施設である新潟県立中央病院の30分圏域カバー人口が約1.6千人増加するなど、迅速な救急医療患者の搬送に貢献する。 ③重要港湾直江津港へのアクセス向上 ・直江津港搬出入貨物の約3割は大潟区、頸城方面であることから、直江津バイパスはアクセス道路として重要な役割を担っており、直江津港を利用した物流効率化による企業の生産性向上が期待される。					
関係する地方公共団体等の意見	地域から頂いた主な意見等： 上越市から早期整備推進の要望を頂いており、特に三ツ屋～下源入間の早期山側3車線化及び犀潟～下荒浜間の早期4車線化に向けた要望を頂いている。 知事の意見： 地域の安全確保等のため、事業を継続する必要がある。					
事業評価監視委員会の意見	審議の結果、再評価及び対策方針（原案）の「事業継続」は妥当である。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	・平成17年1月に1市6町7村が合併し上越市となる。 ・国道8号周辺の開発による交通量増加から混雑が発生しており、三ツ屋～下源入間の山側3車線化が必要。					

